

なんじゃ・カンチャ・言わせてもらいました

2009年よりとよなか国際交流センターおしらせに掲載してきた連載コラム「なんじゃ・カンチャ・言わせてもらえば」の連載は105回(2018年2月号)まで続きました。「なんじゃ・カンチャ・言わせてもらえば」は新たなコーナーに変わりますが、105号まで続いた本コラムについて、これまでの振り返りと書き続けてきた「思い」を聞きました。



105回ということは、8年と9か月書いたということです。そんなに書いたのかと我ながら驚き、一度も締め切りに遅れなかったことにほっとしています。毎月のコラムに何を書くか考えることは、苦痛でもあり、楽しみでもありました。

その月に体験した感動や喜び、怒りや迷い、後悔など一番心に残った出来事を書いてきましたが、締め切りの間際まで、何度も何度も見直し、もっとじっくりくる言葉はないか、すっきりした表現はないかと悩み、最後にはこれが自分の限界と諦め、原稿を送ってきました。夜遅くまで原稿に向き合い、ぴったりくる言葉がはまると、生きていて良かったと本気で思いました。

コラムには主張がないといけないと考え、「在日」女性としての視点や考え方をいつも意識して書いています。また、できるだけ、分かりやすい文章にしようと努力してきました。そして、だれかを排除したり、傷つけたりすることのないようにするのが一番大切な課題でした。私にしか書けないコラムを目指しましたが、どうだったのか心もとない限りです。

日本社会の中では少数者ですが、日本に生まれ育った外国人としては日本での生活経験が長く、韓国より日本のことをよく知っている私です。この先も日本での暮らしを続ける覚悟ですが、コラムを書きはじめた2009年は、バラク・オバマ氏が黒人初の第44代アメリカ合衆国大統領に就任し、日本が自民党政権から民主党政権へ選挙による初の政権交代が実現したという歴史的な出来事があり、期待もふくらみました。一方で、朝鮮半島では、2011年に死去した金正日（キム・ジョンイル）政権下で北朝鮮が「弾道ミサイル」を発射し核開発をしていることを理由に支援の一切を打ち切った韓国の李明博（イ・ミョンバク）大統領が就任1周年を迎えています。李政権は言論や労働運動への弾圧を強め、放送局の解職ジャーナリストたちの強い抵抗にあいます。MBCとKBSに何が起こったのか、それについて描いたドキュメンタリー『共犯者』が、昨年（2017年）8月に上映され、韓国で静かに注目されていました。この映画は、朴槿恵（パク・クネ）前大統領が弾劾

されなかったら、上映が困難でした。朴槿恵政権は「野党支持者」と判断する俳優や文化人、企業をブラックリストにまとめ、あらゆる圧力をかけ続けていたからです。詳しくは、2月16日金曜日午後6時からとよなか国際交流センターで開催される、岡本有佳さんの講演会『日韓の間で考える“表現の不自由”と民主主義—検閲、規制、自粛と抵抗—』でお話を聞いて下さい。

コラムを書き続けた9年足らずの間、ほとんど、学校での実践にあけてくれていましたが、ここ数年、節目になることがありました。2015年8月にベルリンを訪問し、テロのトポグラフィやラーフェンスブリュック女性強制収容所を見学できたこと。2016年6月に『家族写真をめぐる私たちの歴史』を出版できたこと。2017年4月、池田で多文化な子どもたちが元気になる実践を引き継げたこと。6月に韓国で少数在籍地域の民族教育の重要性について報告できたことなどです。さて、これからどんなことができるのか、一生懸命考えています。

私のコラムの一番の誠実な読者は、とよなか国際交流協会のスタッフの人たちです。毎回、励ましの感想を書いてくれました。そして、「いつもコラムを楽しみに読んでいます」という声を聞くたびに、力が湧いてきました。自分の思いや考えをつづり、誰かに読んでもらえるという営みが、生きる力になることを実感する日々でした。

長い間、本当にありがとうございました。今後も、なんじゃ・カンチャ言わせてもらえる私でありたいと思います。



2011年1月 「家族写真や大切な写真を持ち寄って語ろう」ワークショップにて

コラム読者からの声

皇甫康子さんは、不思議な人です。マイノリティの子どもに徹底的に寄り添う教育実践者であるのに、コラムをとおして、街をあるき、本をよみ、映画や舞台や美術品をみて、講演をきいて、世界を拡げたり深めたりする、表現活動者でもあります。たくさんの人を豊かにしてくださり本当にありがとうございました。

(とよなか国際交流協会理事 榎井縁)

ファンボさんとは、直接話する機会は、少ししかありませんでしたが、コラムはいつも楽しみにしていました。在日社会や学校の話にとどまらず、ひざを打つような痛快な内容あり、時には耳の痛いものもあり、とても興味深いものでした。その世界は、まさに多様性であり、今こそ大事にしたいものです。今後も広く発信されることを願っています。

(豊中市人権政策課課長 高橋明)

コラム105回！本当にお疲れ様でした。お目にかかったのは庄内での「家族写真」のイベントでの一回だけだったのですが、あふれるパワーと熱い想いに圧倒されました。マイノリティ当事者として生きてこられたその積み重ねを思う時、それが皇甫康子さんの魅力と計り知れないパワーと優しさになっているのだということに気づかされました。これからもそのステキなパワーと優しさを近くで感じる事ができる機会があればいいなと思っています。

(しょうないREK 小池繁子)

コラム105回 축하합니다(おめでとうございます)! (終わるのは寂しいですが...) 『家族写真』イベントの折り、「日本に来て会えなくなったおばあちゃんの写真とか、今は一緒に暮らせない弟や妹の写真とか、大事に持って来やんねんで!」と子どもたちのことを話していた皇甫さん。まだまだ子どもたちの傍にいてください。写真のワークショップもお願いしたいです!

(とんだばやし国際交流協会理事長 北川知子)



2011年1月 「家族写真や大切な写真を持ち寄って語ろう」ワークショップにて

【協会まとめ・山野上隆史事務局長より】

日々、小学校で子どもと向き合っている中、寝る間を惜しんで書き続けてもらったコラムは2009年4月号から一度も休むことなく続きました。皇甫康子さんに「なんじゃ・カンチャ」と言い続けてもらうことで、とよなか国際交流センターお知らせはイベントや研修について情報提供を行うことにとどまらず、もっと深く鋭く多文化共生について考え、発信することができました。

だれもが自分らしく生きられる社会を作るために、マジョリティの側が何を考え、変わらないといけないか。外国人に対する支援はそれと連動しないと、ただの押し付けになるのではないか。まさにそれを現場で実践している姿に励まされ、刺激を受けることも多く、ただただ感謝の気持ちでいっぱいです。

事務局より、また一読者として。105回、本当にありがとうございました。

チュッカハムニダ

コラム105回 축하합니다(おめでとうございます)! (終わるのは寂しいですが...) 『家族写真』イベントの折り、「日本に来て会えなくなったおばあちゃんの写真とか、今は一緒に暮らせない弟や妹の写真とか、大事に持って来やんねんで!」と子どもたちのことを話していた皇甫さん。まだまだ子どもたちの傍にいてください。写真のワークショップもお願いしたいです!

(とんだばやし国際交流協会理事長 北川知子)



「外国にルーツを持つことをプラスに思える日まで・・・」(「なんじゃカンチャ言わせてもらえば」第1回～第49回分収録)

「家族写真をめぐる私たちの歴史：在日朝鮮人、被差別部落、アイヌ、沖縄、外国人女性」御茶の水書房

